

受験生の皆さんへ

第1次試験の合格、おめでとうございます！

また、数ある就職先の中から海上保安庁を選んでいただき、ありがとうございます！

本紙は海上保安官採用試験の第1次試験合格者の皆様に対し、採用後の研修内容や処遇等を事前によく知って頂くためのものとなります。

海上保安庁は海という厳しい自然環境下での業務実施が求められ、現場業務には常に危険が伴います。このため、規律を重んじる側面もありますが、組織一丸となり困難な任務を乗り越えた時の喜びはひとしおであり、大変やりがいのある仕事です。

また、業務は海のみならず、希望と適性に応じて多種多様な業務を経験することができるため、様々なキャリアを通じて自身にあった業務が見つかることと思います。

本試験において最終合格し、採用となった場合、将来的には幹部海上保安官として巡視船艇に乗り組むだけでなく、本庁や各管区海上保安本部といった陸上で勤務し、海上保安庁の施策、体制の構築等に大きく携わることとなり、大学校における2年9か月の研修をはじめ、これらのキャリアを通じて、幹部海上保安官としてだけでなく一人の社会人として常に自身のスキルアップを実感できる職場が皆さんを待っています。

研修概要や研修修了後の業務内容については、次のとおりとなっていますので参考にしてください。

1 研修内容

本試験において最終合格し、採用となった場合、4月から広島県呉市にある海上保安大学校において、2年9か月の研修を受けることとなります。最初の2年は、海上保安大学校本科学生と同様に、幹部海上保安官として、複雑化・国際化している海上保安業務に対応するために必要な、高度な専門能力を身に付けるとともに、航海又は機関の各専攻に分かれ、海技免状を取得するために必要な海事系の専門的な知識を習得します（1年目：「初任科」として主に海技免状取得のための研修、2年目：「特修科（※）」に編入し、主に海上保安業務に必要な法律等の研修）。また、国内の航海実習を通じて、船舶運航に関する航海又は機関の専門分野の知識・技能を身に付けます。



その後、専攻科（6か月）及び研修科国際業務課程（3か月）に進み、諸外国を巡る

遠洋航海、国内の航海実習、海上保安業務に関する実務教育等を行います。

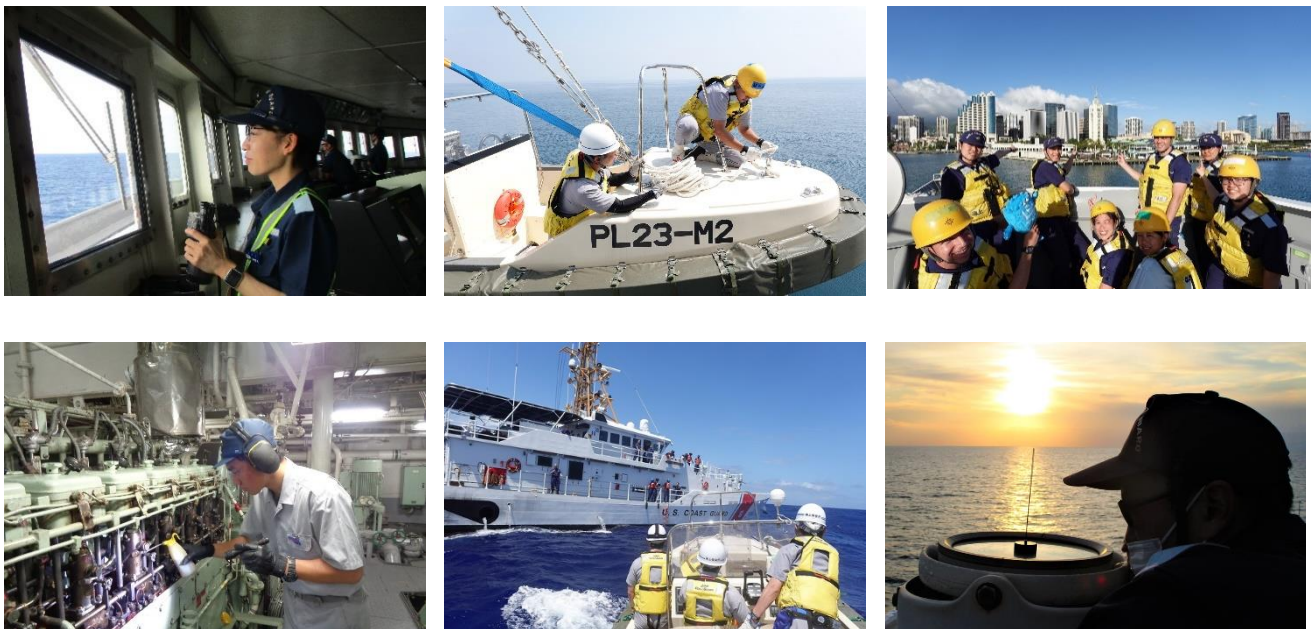
研修中の学業等の成績が不良で成業の見込みがない者は修了できません。

※特修科…海上保安学校卒業者などを幹部登用するための課程です。初級幹部として必要となる知識や技能を身につけます。

(研修科目)

法律、海上犯罪捜査、海難救助等の海上保安業務科目、航海又は機関の専門科目
制圧術、端艇、武器取扱、水泳等の訓練科目、乗船実習 等

【参考】乗船実習中の様子



2 研修中の生活

海上保安大学校では全寮制での生活を送ります。「班」を単位とし、同じ自習室・寝室で生活（個室はありません。）し、研修を通じて、幹部海上保安官に必要なリーダーシップ・チームワークの体得や気力・体力の錬成を図ります。

入学金、授業料等は一切不要で、研修中の生活に必要な制服や寝具等は貸与されます。教科書、食費、身の回り品等は自己負担ですが、毎月約24万円の給与及び年2回の期末・勤勉手当（ボーナス）が支給されます。研修中であっても身分は国家公務員となりますのでアルバイト等の兼業は出来ません。

また、土日や祝日、それらの前日には外泊をすることができ、自家用車を保有する者
にあつては、校内の駐車場に駐車することができます。(駐車場に限りがあるため希望
者多数の場合は抽選となります。)

(一日の流れ) イメージ

06:30	起床 (整列・体操・掃除)
07:10	朝食
08:20	課業整列
08:45 ~ 12:00	授業 (午前)
12:00	昼食
13:00 ~ 17:15	授業 (午後)、体育部活動
17:15 ~	夕食・入浴・外出許可
19:00 ~ 22:15	自習時間 (入浴・外出許可 の時間も含む)
22:15	帰校門限
22:30 ~	消灯 ※延灯 (自習時間の延長) も可能



3 専攻 (航海・機関のいずれか) の決定

採用後、航海科と機関科の専攻に分かれて研修を行うこととなりますが、これにつ
いては、第二次試験時に提出していただく「調査票」をもとに決定します。専攻は、原
則採用試験時の成績順、希望に応じて決定していくこととなります。例えば航海科を
希望していても、航海科の人数枠がすでに満たされている場合、機関科しか選択でき
ず、必ずしも希望の専攻にならない場合もありますのでご留意願います。なお、一度
決定された専攻は変更できません。

(1) 航海科

2年9か月の研修により、国家試験である4級海技士 (航海) 試験の受験資格を
得られ、口述試験に合格することにより同資格を取得できるほか、将来的に1~3
級海技士 (航海) の取得を目指します。

船艇勤務となった場合、主に「航海科」として、巡視船艇の運航 (航海計画の策
定、操船、出入港時の甲板作業の指揮、船体整備など) を担当することとなります。

将来的には船長として、自身が乗船する巡視船艇を総合的に指揮する立場とな
ります。

(2) 機関科

2年9か月の研修により、国家試験である内燃機関4級海技士 (機関) 試験の受
験資格を得られ、口述試験に合格することにより同資格を取得できるほか、将来的
に1~3級海技士 (機関) の取得を目指します。

船艇勤務となった場合、主に「機関科」として、巡視船艇の機関の保守・運用（エンジン、発電機、配電盤等の機器類の操作及び整備等）を担当することとなります。

将来的には業務管理官（船長を補佐し、船で対応する業務を管理する職）や機関長として、自身が乗船する巡視船艇の船長をサポートしていく立場となります。

4 研修修了後の勤務等

海上保安大学校本科卒業生と同様、約2～3年間、初級幹部職員として巡視船に乗り組み、上級の海技免状取得に必要となる乗船履歴をつけながら、警備業務や救難業務など、現場の最前線で多岐に渡る海上保安業務に従事します。続いて、本庁、管区海上保安本部等での陸上勤務となり、海上保安行政の企画立案あるいは各省庁との協議、調整等の職務に従事するなど、2～3年毎に海上勤務と陸上勤務を交互に経験しながら海上保安官としてキャリアアップしていきます。

また、年1回、異動先の希望調査があり、異動先については、本人の希望を尊重のうえ決定されます。（必ずしも希望通りにはいかない場合があります。）

○巡視船艇勤務について

海上保安庁における現場業務の最前線であり、領海警備や取締り、海難救助、災害対応などを経験するとともに、これらを通して海上保安官としての現場感覚を養います。

また、洋上という特殊な環境下での業務のため、荒天下での危険な作業を伴う場合もあり、一歩誤れば重大な事故や怪我につながるため、幹部海上保安官にはこれを防止するため、自身のみならず部下職員に対する徹底した安全管理が求められます。

船の大きさや任務等で異なりますが、一度出港すれば数日～2週間程度、船内で生活し、陸に帰ることはできませんが、反面、まとまった休暇が確保できます。また、帰宅後や休暇中であっても海で助けを待つ人のため、緊急で出勤が必要となる場合もありますが、対応した休日は別の日に振替となり、手当が支給されます。

なお、海上保安庁では、大型の巡視船に衛星通信サービス（スターリンク）を順次整備し、利用を開始しました。スターリンクは福利厚生用としても活用し、洋上でも、私有のスマートフォンなどから、家族に電話ができ、SNSを見たりすることができるようになりました。今後、全ての大型巡視船、測量船へスターリンクを整備する予定です。

5 女性活躍推進等の各取組みについて

海上保安庁では、男性職員に限らず女性職員も、海上保安学校長や本庁課長、海上保安部署長、巡視船艇船長や船艇幹部、パイロット、海上交通センター運用管制官等、さまざまな業務に従事しています。

また、ライフワークバランスの推進に関する取組みを行っており、男女を問わず育児・介護を行いながら働き続けられるよう各種両立支援制度を整え、職員一人ひとりの事情に応じた活用を推進しています。これにより、出産後に職場復帰する女性職員も多く、男性職員も育児に伴う休暇・休業を取得しています。

6 その他

海上保安庁の業務などをより知ることができる Instagram、YouTube、X を次のとおり紹介しますので、是非参考にしてください。

Instagram		X		YouTube	
海上保安庁	海上保安大学校	海上保安庁	海上保安大学校	海上保安庁	海上保安大学校
					

調 査 票

この調査票は、第2次試験当日に持参してください。

この調査票は、最終合格者に対して採用内定をする上で必要となりますので、出来るだけ詳細に漏れなく記入してください。
特に※印については、電話等での連絡時に必要となりますので、確実に連絡をとることができる連絡先を記載してください。
また、本票は、第2次試験当日の試験終了後に回収しますので、忘れずに持参してください。

1. 住所等調査

試験区分 <input type="checkbox"/> 海上保安官（初任科） （大学卒業生対象）	第1次試験地 都 市	受験番号 _____ _____ _____ 本籍地(都道府県のみ) _____ _____	氏 名 (ふりがな) 生 年 月 日 平 成 年 月 日 生 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
現住所 (ふりがな) (〒 -)	※現住所の電話番号 自 宅 [- -]		
(様方)	※【本人・親族・その他()】の携帯番号及びEメールアドレス 携 帯 [- -] メ ー ル [@]		
上記現住所と内定通知先等の連絡先が異なる場合又は現住所以外に通知を希望する場合のみ記載してください。			
内定通知等の連絡先(ふりがな) (〒 -)	※内定通知等の連絡先の電話番号 自 宅 [- -]		
(様方)	※【本人・親族・その他()】の携帯番号及びEメールアドレス 携 帯 [- -] メ ー ル [@]		
会社・親族等の上記以外で確実に連絡の取れる連絡先を記載してください。 <上記連絡先で不在時等に使用>			
上記以外の連絡先 (ふりがな) (〒 -)	※【会社・親族等上記以外の連絡先】 電 話 [- -]		
(様方)	※【本人・親族(続柄:)・その他()】の携帯番号 携 帯 [- -]		

2. 専攻希望調査

海上保安官採用試験（大学卒業生）により採用される者は**航海または機関の専攻に分かれます**。この調査票は、専攻を決定する上で大切な資料となります。
一度**決定された専攻は変更できません**ので記入にあたっては、**将来にわたって勤務することを念頭に置き、希望する専攻を選んで下さい。**

希望する専攻にチェックしてください。

航海科

機関科

(参考)

※ 各専攻の授業内容について

航海科…警備救難業務に関する科目、船舶の運航を担当する航海士を育成する科目等

機関科…警備救難業務に関する科目、船舶の機関の運転・整備を担当する機関士を育成する科目等

所有している資格があればチェックし、級を記入してください。

海技士（航海） _____ 級

海技士（機関） _____ 級